

黙想：ラテラノ教会 の献堂（11月9日）

黙想のテーマ：「最初の教皇座」「心と神殿における礼拝」「典礼用具を大切にすること」

2025/11/09

最初の教皇座

心と神殿における礼拝

典礼用具を大切にすること

キリスト教の初期には、聖体祭儀はキリスト者の家庭で行われていました。裕福で広い家を持つ家族が、共同体のために家を提供したのです。これが原初の「家庭教会 (domus ecclesiae)」でした。ローマでの最初の聖堂はラテラノ大聖堂で、もとには皇帝の親衛隊の兵舎があった土地に建てられました。318年、教皇シルベスルー一世が祝別し、最初は救世主のバシリカと呼ばれましたが、中世には、洗礼者聖ヨハネと福音記者聖ヨハネにも献堂されました。アヴィニヨン捕囚までのかなりの期間、ここをローマ司教座としていましたから、この聖堂は、すべての教会の母、頭 (cunctarum mater et caput ecclesiarum) と称され、今日でも入口の碑文に読むことができます。

今日は、この大聖堂の献堂記念日です。これは聖座との交わりを強めるとともに、キリスト教生活における

聖堂や、礼拝専用の場所が持つ意味の理解を深める機会でもあります。今日のミサで唱えられる叙唱の一つは、この祝いの意味を次のように要約しています。「この祈りの家はあなたの住まい、ここに集まるわたしたちの上に、あなたは尽きることのない恵みを注ぎ、聖靈の神殿となさいます。また、あなたはキリストの花嫁である教会をいつくしみ深く育て、喜びに満ちた母として天の栄光に導かれます」^[1]。このように、目に見える教会は、洗礼を受けたすべての者から成る生きた選ばれた石^[2]でできた目に見えない教会の象徴です。ですから、今日のような祝日に、私たちは主に願います。御助けによって教会を築き上げ、天のエルサレムという永遠の住まいに到達できますように^[3]。

「まことの礼拝をする者たちが、靈と真理をもって父を礼拝する時が来る」（ヨハネ4・23）。これは、礼拝にふさわしい場所はどこかと問う、サマリアの女性に対するイエスの答えです。キリストは、物的な場所を越えて、神は人の心の中に住まわれる（ヨハネ14・23参照）こと、また二人または三人が御名によって集まるところに、ご自分が現存される（マタイ18・20参照）ことを告げました。後年、パウロも、アテネのアレオパゴスで次のように教えました。「世界とその中の万物とを造られた神（…）は天地の主ですから、手で造った神殿などにはお住みになりません。また、何か足りないことでもあるかのように、人の手によつて仕えてもらう必要もありません。すべての人に命と息と、その他すべてのものを与えてくださるのは、この神だからです」（使徒言行録17・24-25）。

神の超越性と、神との関わりにおける内面の重要性を第一に置くことと、人間が、神の近さをより明らかに感じられる場所を必要とすることとは、矛盾しません。さらに、私たちは個人としてではなく、教会、神の民として救われるのです。教会という言葉自体、集会・集まりを意味するギリシャ語 (ekklesia) に由来しています。実際、私たち信者が大小の聖堂に集まるとき、キリストが現存されるのです（特に聖体祭儀において）。「わたしの家は祈りの家と呼ばれるべきである」（マタイ 21・13）。今日のミサの福音で読まれるこのイエスの言葉を思い起こし、自分が教会や小聖堂、祈りの場に入るときの態度を考えてみましょう。そこを本当に神の家と感じ、直ちに聖体の宿る聖櫃に目を向けるでしょうか。心の沈黙を保ち、祈ることができるとができるでしょうか。神の近さや忍耐、人間的でありながら驚くほど親しい関係を保ってくださる神を礼

挙し、感謝しようとしているでしょうか。

アシジの聖フランシスコは、自分の修道会のそれぞれの地域の共同体の指導者たちを通して、司祭たちに強く求めました。「わたしたちの主イエス・キリストの至聖なる御体と御血を、何よりも尊びなさい。（…）聖杯、コルポラーレ（聖体布）、祭壇用の装具など、いけにえに関わるすべてのものは、尊いものとして扱わなければならぬ」と。礼拝に用いる建物や器具を大切にすることは、信仰と愛と感謝から生まれます。理性だけでなく、感覚や感情もまた、神に近づく助けとなるのです。

オプス・デイの創立者は、人間の愛を例に挙げながら、礼拝に、美しいものをささげる理由を説明しまし

た。「もし男性が愛する女性に、愛情の印としてセメントの袋や鉄の棒3本を贈ったらどうでしょう？そんなことはしません。同じように、天におられ、また聖櫃におられるわたしたちの主に対しても、私たちは可能な限り美しいものを差し出すべきです」^[5]。また彼はこうも語っていました。「弱さからくるあらゆる欠点は容易に理解できるが、怠慢による無頓着は理解し難い。祭具を清潔に保ち、品格のある教会を建て、祭壇を輝かせ、祭服を清らかに保つなど、礼拝に関わることすべてに愛を注ぐ人々を、神は特別な愛情をもって見つめられるだろう。こうした人々は、その細やかさを通じて、信じ、愛していることを示すからだ」

^[6]。

おそらくマリアも、ベツレヘムやナザレで、そしてその生涯を通じて、イエスに細やかな心遣いと愛を注いだことでしょう。ラテラノ教会の献

堂のこの日に、私たちも母であるマリアに、その愛を少し分けていただくよう願いましょう。

[1] 教会献堂のミサ、叙唱。

[2] ラテラノ教会献堂のミサ、集会祈願（ラテン語）参照。

[3] ラテラノ教会献堂のミサ、拝領祈願参照。

[4] アシジの聖フランシスコ、クストスたちへの最初の手紙。

[5] 聖ホセマリア、手紙 6、28番。

[6] 聖ホセマリア、聖ラファエル職のための指針、注167。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント <https://opusdei.org/ja-jp/article/mokusou-laterano-kendou/> (2026/01/22)